Ⅳ．新しい水質指標による調査結果

◎新しい水質指標に基づいた「住民との協働調査」を新たに実施。
半数近くの調査地点が"川の中に入って遊ぶことに適している"と評価！
ほとんどの調査地点が"生物の生息等の環境として非常に良好"と評価！

水質を従来のＢＯＤだけではなく、多様な視点から評価するための新しい水質指標（表－１、表－２）を定め、**平成１７年から新たに調査**を行うこととなりました。

表－１の「ゴミの量」、「透視度※1」、「川底の感触」、「水のにおい」並びに表－２の「水生生物の生息」は、住民と協働調査を実施し、「糞便性大腸菌群数※2」や「ＤＯ（溶存酸素）※3」、「NH_4－Ｎ（アンモニウム態窒素）※4」は、河川管理者が調査を実施しました。調査結果を項目毎に評価するとともに、総合的な評価を行ってランク付けしています。

○「人と河川の豊かなふれあい」の調査結果

・**１１水系１６地点**で調査を実施。**住民協働調査に１６団体、２０４人**が参加。
・総合評価は、「**Ｂランク**（川の中に入って遊べる）」**が７地点**、「**Ｃランク**（川の中に入れないが川に近づくことができる）」**が９地点**でした（図－６）。

○「豊かな生態系」の調査結果

・**１０水系１３地点**で調査を実施。**住民協働調査に２０団体、２６６人**が参加。
・総合評価の「**Ａランク**（生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好）」**が１４地点**、「**Ｂランク**（良好）」**が２地点**、「**Ｃランク**（良好とはいえない）」**が１地点**でした（図－７）。

表－１　調査項目と評価レベル

ランク	説明	ランクのイメージ	項目と評価レベル				
			ゴミの量	透視度（cm）	川底の感触	水のにおい	糞便性大腸菌群数（個／100L）
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらない。または、ゴミがあるが全く気にならない。	100以上	不快感がない	不快でない	100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる。	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快ではない		1000以下
C	川の中に入れないが川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である。	30以上	ヌルヌルしており、不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる。風下の水際に立つと不快な臭いを感じる。	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあって、とても不快である。	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる。	

※1 透視度：水の濁り具合を示す指標で、値が大きいほど濁りが少ない。

※2 糞便性大腸菌群数：人や動物の排泄物に由来する大腸菌群により、水の汚染状況を調べる指標。

表－２　調査項目と評価レベル

ランク	説明	項目と評価レベル		
		DO（mg／L）	NH4-N（mg／L）	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0．2以下	Ⅰ きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビゲラ 等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0．5以下	Ⅱ 少し汚い水 ・コガタシマトビゲラ ・オオシマトビゲラ 等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2．0以下	Ⅲ 汚い水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ 等
D	生物の生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2．0を超えるもの	Ⅳ 大変汚い水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ 等

※3 DO：水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※4 NH4-N：水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。